

お客様のお宅拝見！



重なる空間、積み重ねて行く時間

浜松市中区 S様邸

浜松市の中心部、端正な切妻屋根とガレージの片流れ屋根の稜線が美しいS様邸をご紹介します。S様邸は、本誌としては初の紹介になる二世帯住宅です。さて、どんな住まいに仕上がったのでしょうか。

2F 家事室



真っ白な壁に包まれた家事室

1F 廊下



腰壁スタイルの廊下

1F リビング・ダイニング



琉球畳を配した和スペース

2F リビング・ダイニング



スタイリッシュな仕上りのリビング・ダイニング

まずご案内頂いたのが1階、日本家屋の伝統を思わせる木目の腰壁の廊下を通り、リビングに入ります。暖色系の壁紙と琉球畳を配した和スペースにより、非常に暖かな印象です。お母様が最後まで悩まれたという、白いキッチンキャビネットが、絶妙のコントラストとなっています。

次に2階に上がると、まず目に飛び込んでくるのが、真っ白な壁に包まれた家事室。慎重に吟味された最小限の家具類と相まって、インテリアショップの広告を思わせる佇まいです。隣接するリビングは、白壁とウォールナット床のコントラストが映えるスタイリッシュな仕上りです。各所に配した明り取り窓から差し込む柔らかな日差しが心地よい空間を醸し出しています。

今回の住まいづくりで特にこだわった点をお聞きすると、「今回家事動線についてはこだわりました。洗濯の動線、キッチンから水回りへの動線・・・、シミュレーションしていくうちに面白くなってしまって、風の動線まで意識してしまいました(笑)」と奥様。「インナーガレージは夢だったので、取り入れることは最初から決めていたのですが、建物とどう調和させるか悩みました。何度もプランをやり直して頂いて・・・」とご主人。「1階廊下を腰壁スタイルにするのは当初からの計画

です。単純に和風にするのではなく、和のテイストを巧く盛り込めればと思っていました。フルオーダーだから好き勝手できると思っていましたが、決めることが多すぎて大変でした。」とお父様。各人こだわりどころは違いますが、巧く融合し、単一にならない雰囲気醸し出しています。これが、多世帯住宅の醍醐味でしょうか。

新築されて変化したことを伺うと「いままで、やりたくてもできなかった庭いじりを始めました。家庭菜園を作って、ナス、トマト、セロリや小松菜を初収穫しました。これからも増やしていきます」と奥様。「庭にしても、インテリアにしても、少しずつ手を加えていくのがいいですね。思わぬ発見があったり、次にやりたいことが見つかったり。今度、わざと時期をずらして野菜を植えると、どんな収穫ができるか試してみようと思っているんです(笑)」とご主人

多世帯住宅を考える時「親子の距離」「気遣い」みたいなことが語られます。S様邸を伺うと距離感というより、異なる感性が巧く補完し合っているように感じます。経験に裏打ちされた親世帯の洗練、子世帯の先進・奔放さが巧くバランスして、家族を作っていく、二世帯住宅という言葉がまだ無かった頃の日本の家の遺伝子がこの住まいにはあるように感じました。

家族一人ひとりのこだわりがちりばめられています

